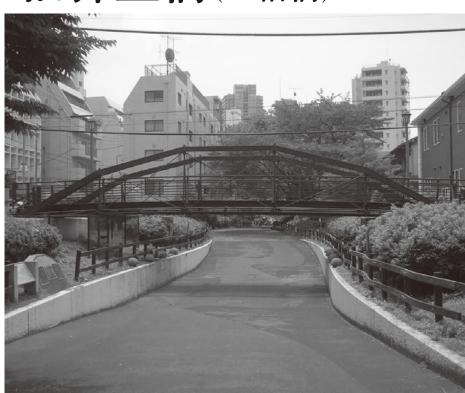
日常の中の文化財

国指定重要文化財

弹正橋(八幡橋) 富岡1-19~同2-7







(上・左下)現在(右下)昭和30年(1955)頃。橋の下を流れるのは八幡堀。

至っています。

練鉄という、鋳鉄から練鉄への過いってもアーチが鋳鉄、他の引張

渡期

製作されてすでに136年。

発 江東区地域振興部 文化観光課文化財係 〒135-8383

江東区東陽4-11-28 TEL(03)3647-9819 http://www.city.koto. ℓg.jp/

○日常の中の文化財

- 国指定重要文化財 旧弾正橋(八幡橋) ○城東の村を歩く⑥
- 亀戸出村
- ○江戸の町内探訪⑦ 伊勢崎町
- ○第32回(平成25年度)時雨忌記念講演会録 俳諧から俳句へ
 - ~ホトトギス千四百号の歩み~
- ○文化財まめ知識 江東区内の庚申塔

橋は国の重要文化財なのです。

用されているわけですが、

実はこの

都復興事業で廃橋となりました。とはいうととままり。 2年の 関東大震災後変更され、同12年の関東大震災後 製の ましたが、 現在の中央区京橋の楓川 橋が架けられると、元弾正橋と名称 京で最も古い鉄橋です。 在の東京タワー (1878) に工部 1 9 1 3 弾正 车 八幡橋は、 八幡橋の呼称で親しまれ、 弾 (1929) に現在地に移され 橋と呼ばれました。 正 橋があったことから、 同12年の関東大震災後 そこには江戸 に工部省赤羽製作所東京府の依頼で明治 の市区改正で新し 付近) が製作した、 時 13 完成すると 代から かけら 大正2年 61 現 所设治 弾 昭 当 在 0 11 現 正 時 木 れ 東 和 年

ある赤く塗られた鉄橋で、 ます。その点、ごく普通の橋とし 人々や小学生たちが登下校に渡って 八幡橋は、 富岡八幡宮のすぐ東 毎: Ħ 地域

(文化財主任専門員 出口宏幸 財としてだけでなく、

橋としての

もまったく変わっていません。

に架橋され85年が過ぎましたが、

文化 在

高いものと評されています。

現

地

遺作として、近代橋梁技術史上価:

城東の村を歩く⑥----亀戸出村

亀戸出村についてご紹介します。 正式な村としては成立していなかった 大島地域の出村のうち、 回 「大島地域の出村」に引き続き 江戸時代には

村の中の「村

竪川南岸・中川沿いの広域にわたり、 おおむね大島3・6丁目の大部分と 4・5・9丁目の一部にあたります。 亀戸出村の範囲は、 横十間川以東

> との沿革を記した江戸時代の官撰地誌 亀戸出村の範囲である竪川南部も「亀 な村としては成立していませんでし 取り上げた他の出村とは異なり、 をみても、「亀戸出村」の項目はなく 戸村」と表記されています。 た。 江戸時代の切絵図 (図1)を見ても 『新編武蔵風土記稿』(以下『新編武蔵』 武蔵国(現東京都・埼玉県)の村ご 部の地名として使われており、 亀 戸出村は、江戸時代には亀戸村の 正式 前回

村として把握されていませんでし 明に「竪川南部の中川の方に も村域が広がり、飛地のよう た。そして、「亀戸村」 の説

図1 嘉永4年(1851)「改正本所猿江亀戸辺図」(中川船番所資料館蔵) きであったことを指してい が万治2年 です。この点が前回紹介した 村)とは認識されなかったの された」という認識だったこ が広がっている」のではなく 文があり、 飛地とは言わない」という一 る前は地続きだったので今も 前は亀戸村本村と出村が陸続 削された人工河川で、それ以 とがわかります。これは竪川 に見えるが、竪川が開削され 川が開削されて村域が分断 そのため、 「川を越えて飛地 (1659) に開 「飛地」(出

南北代町 後出於 人名村 惠

五 五

SI TK

う。 として成立した出村と異なる点でしょ れた土地の代わりに与えられた替え地 他の出村のように、幕府に召し上げら

うひとつの「村」として存在していた 竪川以南の亀戸村領域にあたる小名の と考えられます。 程度の自立性をもっていた村の中の のことから江戸時代も亀戸出村はある れて住民に認識されていたのです。こ るなど実質的には亀戸村本村と区別さ して本村とは別に村役人2人が置かれ に含まれていましたが、「出村分」と て本来、年貢上納など行政的に亀戸村 総称としては存在していました。そし かし、 「亀戸出村」という地名は、

亀出神社の地蔵供養塔と羅漢寺

ことから、 神 社 迫っていたことがうかがえます。 村 る羅漢寺は「亀戸村」に所属している 所属とされていますが、すぐ近くにあ では愛宕神社そのものは を示しています。 で亀戸出村の範囲が広がっていたこと 戸出村に由来しており、神社の辺りま を亀出神社といいますが、この名は (1672) の創建と伝えられ、 亀戸出村にゆかりのある神社に愛宕 の境界が愛宕神社のすぐ近くまで (大島3) があります。 亀戸村 ただし (亀戸出村)と大島 「大島村」 『新編武蔵 寛文12年 別名 0 亀

竪川以南の地域も「亀戸村」となっています。「畑」とのみ記され ている箇所も亀戸村に該当し、「五百羅漢寺」(羅漢寺)も亀戸

找

木

內縣

村の範囲内に含まれていると考えられます

料上で確認することが困難な江戸時代 間には「亀戸出村」 名が刻まれており、 尊として堂内に安置されています。 化財、 の銘文には「亀戸出村講中」と奉納者 す。それが、 存在を証明する文化財が残されていま の亀戸出村ですが、愛宕神社にはその 1 7 2 5 たことが示されています。 村として正式に成立しておらず、 図2)で、現在は亀出子育地蔵 在銘」 「地蔵供養塔 (区登録有形民俗文 の名称が成立して 少なくとも享保年 享保10年 そ 史



図2 地蔵供養塔 享保10年在銘

同じ) 明治36年に区外から転入。所在地は 史跡「五百羅漢跡」大島4-5) 漢寺には亀戸出村に関する文化財は残 在の西大島駅近くに位置する羅漢寺は されておりません。しかし、 に属しています。残念ながら、 有名な羅漢寺 川広重の浮世絵でも知られる三匝堂が 1 8 7 7 また、 も 江戸時代は五百羅漢 『新編武蔵』では の寺院明細帳 (明治20年区外転出。 (政府 明治10 「亀戸村_ (区登録 現在羅 や歌 が寺 現

わかります 所在地も亀戸出村が中心であることが 門ら3人の名が記されており、 世話人総代として亀戸出村福田宇右衛 上げさせた帳簿、 わずか5軒とも記載されています)。 本成寺・黄檗・時明細簿』東京都公文 院ごとに来歴や寺宝などの財産を書き (以下都公)蔵)には、檀徒総代 (ただし、当時の檀家数は 『妙満寺八品 檀家の ・興門



明治初期の亀戸出村

ですが、 いという曖昧さがあった 本村と一体でありながら、 前述のように行政区画としては亀 明治以降の地図にはその名 自立性が強 「亀戸出村

んでしたが、その出願人の中には「亀

そして、行政的にも亀戸出村独自 が明記されるようになります きが認められるようになります。 **図** $\underbrace{4}_{\circ}$ 0 動

戸

対し、 府が管理していた大横川縁奥行2間 中川堤防修繕許可を出願しています。 被害などが出て、 ていたようです。 土地の管理があいまいになり、高潮の (約3.6m)・幅50間 幕府が解体した明治維新以降、 明治初期には、 大横川の官有地払い下げ嘆願や 農作物の不作が続い 亀戸出村が東京府に (約91m) あまりの 旧幕

により、 京府は です。 ます。これに対して亀戸出村などの町 るため、 3年6月、地代185円で払い下げら 町村は、その土地を町村方に払い下げ 居住している人もいる、 村は、明治10年8月に嘆願書を提出し、 てほしいと東京府郡政局に出願し、 し、上納した地代も返却されてしまい 心して農業が出来るようになったよう 明治2年8月、 縁の土地にはすでに家が建てられて 町村で堤防の築造などを行って安 しかし、同8年10月、突然、東 い下げの再認可を願い出ます。 「河岸地規則」 この願いは聞き届けられませ 河岸地を官有地として管理す 払い下げを取り消すと通達 亀戸出村など周辺の (明治5年成立) などとして川 同

> 明治以降の亀戸出村の村政の一端が垣 地理・第四号』都公蔵)。 間見られます 出 福田宇右衛門」が名を連 (租税課 『既決簿・郷 ね 村

村総代 内容の願いを提出しています。 で、至急許可をいただきたい、 るため、村費による修繕を行いたい 川沿いの堤防が「欠崩・大破」 また、 福田宇右衛門」 明治11年8月には、「亀戸 ら2名が、 してい という 中 出

政を行っていたことがわかります。 亀戸出村が一定の自治能力をもって村 課 235円余りという工事でした(土木 足動員数は延べ1142人、予算は 4 0 7 間 このように少なくとも明治初期には 仕様書によると工事は、堤防総延長 『回議録・願伺届・共九ノ七』 都公蔵) (約732m) あまり、

大島の成立と亀戸出村の名残り

来、 経ても、竪川を境とする亀戸と大島の 川区と城東区の合併 竪川がその境界となりました。これ以 島村」(明治33年町制施行) 大島地区に相当する「亀戸村」と「大 編入されます。この時、 制町村制施行により正式に大島地区 確になった亀戸出村は、 こうして亀戸との行政的区分けが明 昭和7年の亀戸町・大島町・砂 (城東区成立) (江東区成立) や昭和22年の深 明治22年の市 現在の亀戸 が成立し、

事本

という地域が竪川以南にも広がってい と竪川以北の地域を指しますが、以南 の名残りがあるのは、 ていきました。現在では、 地域編成に変更はなく、これが定着し たという歴史的経緯があったからなの の地域にも「亀出」などの亀戸 古くは 亀戸という 厂の地名 「亀戸





ています。「亀戸出村」の村域に「羅漢寺」も含 現在の大島地域に「亀戸出村」の名が明記され 竪川と小名木川、横十間川・中川に囲まれた 図4 明治11年「精測東京府下改正区画郡区町村明細図」部分(国立国会図書館蔵)

(文化財専門員 斉藤照徳 まれています。

江戸の町内探訪で 伊 勢崎 町

勢崎町 相を見ていきます。 上』)を中心に、成立の歴史や町の様 方書上』(国立国会図書館所蔵、以下『書 今回 は (清住3付近)を取り上げ、 仙台堀に面して展開した伊 町

町の歴史と様相

(1699)に材木が猿江御材木蔵に材木の置場として利用し、元禄12年 松村町(銀座1)辺りの材木問屋が で南茅場町 西側に位置しました。 伊勢崎町は、仙台堀北岸に展開した 寛永(1624~)から元禄頃ま 現在の清澄通り (日本橋茅場町1・2) 『書上』によれ 「海辺橋」北岸 ゃ

> 徳 3 年 の辺り 配となりました。 同心6人が拝領しました。その後、移ると、翌年11月に川船方手代13人 17 13 3 翌年11月に川船方手代13人とからがあるからででだい 「元木場」と呼ばれ、 閏5月には町方支 正

年2月のことで、内容は次の通りです。 間(約9m)を往還とし、現在使用し合わせ、それぞれ拝領屋敷の内の表5 町内一円が類焼したため、 ところが、同年12月に発生した火災で、 河岸地がないため、借りる者も見当たがにまれていないため、提領当時は、堀割に面していながら ている川沿いの往還を河岸にしたい らず、地主一同「迷惑」していました。 拝領地は、 町奉行所に願い上げました。同4 類焼前から町屋として 堀割に面していながら 屋敷前に河 一同が申し

伊勢崎町 海辺橋

「本所深川絵図」部分(2点とも)

年

(1732) 5月に河岸地を含めた

れ

町屋となりました。

458坪余が大文字屋源八に買い取ら

「宜町人」(商人)が借り、助成になり会に河岸を設け、蔵などを建てれば 岸がないため、「軽キ町人」(借家人) したくお願いします。 ねるため、屋敷内の道幅五間を往還に ます。「軽キ手代同心」も類焼で続兼 以外に借りる者がいません。 この機

可が出て認められました。 4月に勘定奉行から川船方手代頭に許この願いは、町奉行が吟味し、同年

町場 た。 では、 原長門守が抱町屋敷とした後、享保17 は異なりました。元禄13年11月、小笠 買が認められた町人地) 河岸の必要性を痛感していたのです。 河岸も多く、 物資を積み下ろしする河岸が必要でし 輸送した当時、水路に面した場所には 意味をもちました。船が大量の物資を 江戸時代、 水路の発達した日本橋や深川には 方、町内の東方は (商業地) としての価値を生む、 河岸 (物揚場)の有無が大きない。 河川・堀割に面した場所 伊勢崎町の拝領者たちも 「沽券地」 で、拝領地と (売

家にしてきましたが、

左兵衛に下し置かれ、 また、西方では100坪余のうち69 本所中之郷元町 召し上げられた屋敷地の代地 百姓地として中 (墨田区)の

> りの31坪余は、本所掛りの町方御用1 興味深い記述があります。 敷になりました。さらに、 之郷名主に年貢が納められました。 もうひとつ 残

勢崎町も往古は海辺新田にふくまれて あり、 などはなく、確かとはいえませんが。 年正月に久世大和守の拝領地となりま いたと聞いています。もっとも、 した。現在も久世家の屋敷ですが、 と申す者が所持していましたが、享保5 往古は海辺新田に属し、美濃屋利左衛門 る石橋があります。この屋敷の場所は、 町内の裏手に久世長門守の下屋敷が 町内の中程に通用道と圦堀に架か 書留 伊

世家 庭園 もっていたことがわかります。 えられます 庭園は屋敷の庭を基礎に造られたと考 この辺りも昔は村であったとの認識を の深川一帯の村名(猟師町を除く) た、「海辺新田」とは、 享保5年(1720)に拝領した久 (清住3-3-9) (関宿藩) (本紙262号参照)。 下屋敷は、現在の清澄 小名木川南部 の場所で、 で、 ま 同

単なる町人地ではなく、 相を呈していました。このことは、 つといえるでしょう。 、隣接地である深川の地域的特質の 以上のように、伊勢崎町といっても、 町方御用屋敷地を含んだ複雑な様 拝領地、 百姓

(文化財主任専門員 出口宏幸

第32回(平成二十五年度) 時雨忌記念講演会録

〜ホトトギス千四百号の歩み〜俳諧から俳句へ

講師 稲畑 廣太郎(「ホトトギス」副主宰・雑詠選者

「俳諧から俳句へ」をお話しします。ではいます。ご了承ください。まず、ら俳句へ」と演題を決めたのですが、ら俳句へ」と演題を決めたのですが、らまず、「ボートギス千四百号の歩み」にしたいと思います。ご了承ください。まず、いと思います。ご了承ください。まず、

て「俳句」としました。
まの発句」と語の発句」を縮めき、明治24年に「俳諧の発句」を縮めたとを正岡子規が俳句革新運動を始めたといました。これました。これは、江戸時代では「俳

話はそれますが、子規は命名の名人でした。高濱虚子の「毎子」も、虚子の長男の高濱年尾の「年尾」も子規がの長男の高濱年尾の「年尾」も子規がでした。「年尾」は年末の生まれ

のでした。これでは弟子は点取りにばた句には賞品が出る、というようなもた句には賞品が出る、というようなもた句には賞品が出る、というようなもた句には賞品が出る、というようなもた句には賞品が出る、というようなも



という俳句雑誌の誕生でありました。という俳句雑誌の延生でありました。明代の様々な俳句大きえていました。現代の様々な俳句大きるでも「あの選者ならこの言葉を使えば選句してもらいやすい」という傾向を考えて投句することがあるようですが、自分の作品としての俳句の値打ちが、自分の作品としての明句の値打ちはどうだ、というのと同じです。明治になっても、俳句はこの月並俳句という問題をはらんでいました。それをう問題をはらんでいました。それをう問題をはらんでいました。それをう問題をはらんでいました。という俳句雑誌の誕生でありました。

を見ていきましょう。では、これから『ホトトギス』の歩み

『ほと、きす』1号は、明治30年1月15日発行です。題字は「ほと、きす」となっていて、表紙と本文の厚みが同じです。愛媛新聞社の印刷機を借りてこです。愛媛新聞社の印刷機を借りていたから、発行人は柳原極堂、子規は主筆となります。1号には巻頭句「俳と筆となります。1号には巻頭句「俳は主筆となります。1号には巻頭句「俳は主筆となります。1号には巻頭句「俳は主筆となります。1号には巻頭句「俳別宗匠選」とあります。江戸時代の「宗匠」の名残が見え月並俳句から脱却しきれていなかったところが、松山がと思います。

二十号までです。発行人の極堂が忙し 「ほと、きす」を引き継ぐ なって発刊できなくなってしまいま した。その頃虚子は、東京で独自の俳 した。その頃虚子は、東京で独自の俳 た。子規はそれを知っていましたから、 だ。子規はそれを知っていましたから、 をやるよりも良いだろう、と考えて虚 らやるよりも良いだろう、と考えて虚 らやるよりも良いだろう、と考えて虚 ということになりました。 ということになりました。

は残らなかったでしょう。

東京へ移って最初の『ホト、ギス』 東京へ移って最初の『ホト、ギス』 は、第二十一号明治31年10月号です。 表紙はカラー版画です。巻頭句は「こ、 らあたり地代もやすし鳴く蚯蚓 香墨店子選」。 俳句欄は、虚子、子規、河虚子選」。 俳句欄は、虚子、子規、河虚子選」。 俳句欄は、虚子、子規、河虚子選」。 俳句欄は、虚子、子規、河虚子といました。このあたりから現在に至る『ホトトギス』の体裁が出来てきたようです。今、全国の俳誌の中核をなしている「雑詠」というコーナーは、なしている「雑詠」というコーナーは、ずったようです。 今、全国の俳談の『ホトトギス』明治41年10月号から始まりました。

とが起きています。 目漱石の小説「幻影の楯」が掲載されゅをうせき 雨里 碧梧桐選」、この長しし リ 文芸誌となり購買数が増えて行きまし を元にした小説で、イギリス留学をし 影の楯」はイギリスのアーサー王伝説 ています。掲載小説にわざわざカラー 句は「指呼の中二の石門のかすみけり しまい、二百号までの間には様々なこ いきます。「雑詠」 た。虚子も俳句より小説に力を入れて などの小説が連載され、俳句雑誌から は漱石の「坊ちゃん」「吾輩は猫である」 まったく違います。『ホトトギス』に た漱石らしい、当時の日本の小説とは のきれいな表紙をつけていました。「幻 百号は、明治38年4月号です。 も9か月でやめて (次頁へ続く) 巻頭 夏なっ

句は碧梧桐にまかせる」と言っていた であった漱石が新聞主筆となって忙し 序良俗に反するということで、『ホトト 宮瀧子の小説「女」が掲載され、その祭をだきこ くらいでした。しかし『ホトトギス』 は碧梧桐に流れてしまい、虚子も「俳 出来事がありました。また、小説の要 ギス』は発売禁止、 小説の登場人物である女性の言動が公 めてしまいます。 くなり、『ホトトギス』誌上の執筆をや 、購買数はぐんと落ちてしまいます。 明治43年9月号は、女性小説家の一 大正元年9月号に、虚子が『ホトト 「虚子十態」が掲載されまし 俳句欄めあての読者 回収になるという

ギス』の編集に苦労している様子を描 た。鎌倉に住む虚子が東京の事務所へ いた漫画



を、 発送して売れ残ってしまう、という姿 稿を入れて雑誌ができあがり、 行くところ、選句し編集し印刷所へ原 画家の小川千甕が描きました。 各所へ

紙は横山大観、昭和26年には東山魁夷へ夢二などもそうです。昭和16年の表 うこと」などが掲げられ、俳句で復活 が描いており、 表紙から画家が育っていきました。竹 たことから、『ホトトギス』の挿絵や 絵に売出し中の若手画家たちを起用し することが宣言されました。また、挿 する」「挿絵を一芸術品としてあつか 俳句を鼓吹すること」「俳句を専門と 筆となること、「平明にして余韻ある 明を出しました。そこには、虚子が主 として今後の『ホトトギス』の所信表 力、人を引っ張る力がありました。 虚子は、大正2年正月号に「高札」 虚子には才能を見抜く

廃れていたのです。 虚子は演能を催し、文壇や文人を招待 号は第4刷まで増刷され、かなり売れ たようです。二百号記念行事として、 人も少なく、また一般人が能楽を見に し能に親しんでいましたが、 しました。虚子の実家である愛媛県松 二百号は大正2年4月号です。この 市の池内家は、 武士の文化であった能楽はだいぶ 同じ郷里出身の碧梧桐も謡を 能楽師の家柄です。 能楽に関心のある 明治維新

> 度だけです。 俳句が仕事、でしたから、『ホトトギス』 しかし、虚子にとっては、能楽は趣味 楽をとりあげ、記念演能も行いました。 そこで、虚子は『ホトトギス』でも能 行くのは遠慮するような風潮でした。 に能楽がとりあげられたのは、この

巴」です。買へば簪が媚びる夜寒かな 買へば簪が媚びる夜寒かな。渡辺水うになりました。二百号の巻頭句は「櫛 して、再び「巻頭句」が載せられるよ 時中止していた 「雑詠」 欄が復る 活

多いといわれている」が、しかし「俳 には「近代の句は無味乾燥な写生句 馬巫女の鼓を括られて と決意を示しました。 る責任であると信ずるのであります。_ にすぎない」とし「これが私の光栄あ た雑詠の選を今後も続けてやっていく 述べています。最後に「従来やってき の一部である、という、虚子の考えを 華される、人間という自分自身も自然 対象をよく見るからこそ花鳥諷詠に昇 閉じ込める、そして句として発散する。 客観写生をつきつめることで、主観を 表に出ない主観がある」とあります。 句には客観写生に主観が入っている。 は この頃、 大正10年9月号の三百号では、 「俳句所感」を書いています。そこ 正月号では、 巻頭句 緑堂」。 著名俳人、 「夏野 虚子 村ら

> 蛇笏、岩木躑躅などの色紙を、カだこう、いわきつつじ 上鬼城、長谷川零余子、原石鼎、 介みをじょう はせがわれいよし はらせきてい うこともしていました。 印刷で5枚一組7円で頒布する、 カラー と 飯い 田だ

旬 載しています。五百木瓢亭、村上鬼城俳人からお祝いの文章などを募って掲 ŋ 別冊で記念句集を刊行しました。 などの名前が見えます。この号では、 四百号昭和4年12月号では、 阿波野青畝」。「十六夜のきのふともなく照らしけ 読者、 P

三で、 りに乳倉の子 館にあります。 す。デスマスクの実物は虚子記念文学 した。作者は彫刻家・洋画家の石井鶴調布深大寺にある虚子像がつくられま 五百号昭和13年4月号では、 虚子のデスマスクも作っていま 中田みづほ」。 巻頭句「腰高の障子明 現在

と (虚子に) に雲や朴の花 昭和26年から 質においては変更するところはな 濱年尾となっています。虚子が「ホト ものです。なぜか表紙だけが立派です。 時代を反映して、本文の紙質が粗悪な になります。 たのち、 トギスの仕事を年尾に譲る」と発表し この頃から、発行人は虚子の長男、 六百号昭和21年12月号は終戦直 六百号の年尾の消息には「実 申しました」とあります。 他野見山朱鳥」。 ・ 野見山朱鳥」。 ・ となげし、 「雑詠」の選句も年 如く ·尾選 後 高

うな「お別れ」の雰囲気、惜別が感じ を守るということも、それもまたい 年尾が自然にまかすということ、旧態 聞いたが、 尾に譲った。そのとき年尾に所信を 号を懐古した文章を載せました。子規 だデザインで、川端龍子が描いていまかおばたりゅうし 鯉があぶくをはいているのが「700 七百六十号は虚子一 られます。なんとも不思議なことで 懐古文の4年後に亡くなりますが、こ る。」とあります。 に為すこともあらんことを切望してお いと思っている。しかし、年尾が新 さまず、年尾にまかしておる。そして た。私はホトトギスのことには口をは があった。」「ホトトギスは数年まえ年 たが、それは雑誌経営のうえで失敗 広く文藝雑誌としてたつべき志だっ や漱石のことに触れ、「ホトトギスも と短き日その後長き日を」、また七百 す。七百号の虚子の記念の句は になっている、というユーモアに富ん て発行されました。 の文章にはそれがわかっていたかのよ 七百号昭和30年4月号の表紙絵は、 4年後の昭和34年4月に虚子は 七百五十号は虚子追悼号 自然にまかすのみと答え 虚子自身は、この 周忌の特集号とし 「子規

物語 初語 京極杞陽」。・ 七百号の巻頭句一 高濱年尾の選です。 「春風の日本に源氏

> ね。 ろい句なので対で覚えてしまいます 風の日本に平家物語」でした。おもし 頭になりましたが、もう一つの句は「秋 この句は、2句投句のうちの一句が巻

れり 佐藤漾人」。 品です。巻頭句「大岩の厳然として滴 ました。備前焼の名匠伊勢崎陽山の作号では、備前焼虚子胸像の頒布を行い 子が述べたことに答えています。八百 は旧態を守ってホトトギスを育成 いることに満足している」と、前 八百号昭和38年8月号で年尾は、 に虚 して 私

子」。年尾は朝日俳壇の選者がための入山の儀や月の秋 子に代わっており、 それより少し前の昭和5年から稲畑汀 ました。『ホトトギス』雑詠の選者は、 いましたが、昭和54年10月に亡くなり 九百号昭和46年12月号、 年尾は朝日俳壇の選者になって 稲畑汀子が主宰と 秋 岡安迷 巻頭句「我

ます。 描いてい 倉貨画 紙は 遊家の も が 小*本 和55年4 月号の表 千号昭

た。

頭句「葬ご、ろの禁煙ひと日秋ふかき 石山佇牛」。

彩子」。私がホトトギス社員として加 しています。 が思い出に残っています。このときに の満開のなかに大雪が降ったというの 虚子忌で祝賀会があったのですが、 わることになりました。4月8日には よりも勿忘草という名摘む 歳月ホトトギス」という映画を製作 りも勿忘草という名摘む 粟津 松千百号昭和3年8月号の巻頭句「花 桜

純也」。記念行事として、虚子の書い文忌の滝に吸ひ寄せられむとす 三村創刊から数えて百年です。巻頭句「非創刊から数えて百年です。巻頭句「非くは調べきれませんが、1987年の 刪 数が本当にあっているのか、増刊や別 しました。虚子の書いた新作能 た新作歌舞伎を片岡我當が演じて上演 されていたのか、これまでの巻数と号 となりました。すべての月に毎号発行 1996年は、 上演もありました。 千二百号平成8年12月号、 刊行がなかった月などもあり細 創刊からちょうど百年 この 「実朝 年

太郎に交替しました。ちなみに選者は 稲畑汀子は雑詠選者を引退し、 けて枯尾花 ています。 川端龍子の孫息子である岡信孝が描 千三百号平成17年4月号の表紙は、 巻頭句 稲畑廣太郎」。この号で 「オリオンの存問受 稲畑

雑詠には投句できません(笑)。

性俳人のほうが多くなりました。ホト 子の娘である星野立子が創刊主宰したから、女性の俳句が始まりました。虚から、女性の俳句が始まりました。虚 りけり卒業子 山田佳乃」。巻頭句はなりました。巻頭句「人の輪の外にを えています。 世界です。俳句を作ることに、へだた 俳句は女性も男性も関係ない、 トギスの主宰も女性である稲畑汀子が なっています。それから現代まで女性 俳句をすすめて『ホトトギス』に「つ 子が大正2年に、女性も文芸を俳句を ません。しかし、現在では女性俳人の にも最後の山田佳乃以外に女性がおり りはありません。へだたりの無い俳句 る俳句雑誌もたくさん出来ています。 つとめておりますし、女性が主宰であ の俳人はどんどん増えて、 つじ十句集」という欄を作ったところ してみてはどうか、と初めて女性にも ほうがたくさんいらっしゃいます。 100号ごとに紹介しましたが、 の世界を、 「玉藻」が女性の俳句雑誌の草分けと「紫ぁ」 平成25年8月号が千四百号と 結社をやっていきたいと考 現在では女 対等な 偶然

平成25年10月13 \mathbb{H}

* 稲畑廣太郎氏は平成25年10月27日に ホトトギス」主宰に就任されました。 於:江東区芭蕉記念館

文化財 東 ま め 知 の庚 識 申 塔

を消していき、

江戸時代初期に板碑か

1573~1592)

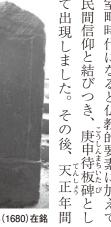
頃から急激に姿

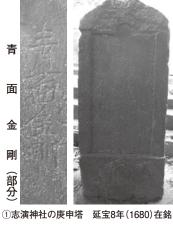
ら変化したと思われる板碑型の庚申塔

た信仰です。 道教の考えをもとに、 内にいる三尸の虫が体内から抜け 申信仰とは、 て全国に拡大しました。 60 日 に .基づいて建てられた石造物です。 .信仰などの影響を取り入れて成立し 庚 天帝にその人の悪事を告げて早死 申塔は、 度) 庚申の夜に眠ると人の 江戸時代には 徹夜をして過ごすという 十干十二支の に行なわれる庚 仏教・神道・民 庚 庚 申講とし 申 申 信 0 出 庚 H 仰

庚申塔の形態

・ 全、天正年間室町時代になると仏教的要素に加えて 室町時代になると仏教的要素に加えて が造られるようになりました。 ら各地で板碑と呼ばれる板状の供養塔 によって流行もあります。 庚申塔には様々な形態があり、 鎌倉時代か 時期





半に隆盛し、18世紀後半には衰退しま る光背をかたどった形状で、 あります。光背型は、 角 n 柱型 このほかに、 駒型は、 4 紀後半 正面頭部 光背型 丸彫り 19世紀前半に継続 仏像の背後にあ 型 が山状になって (②)、駒型 <u>(5)</u> 17世紀後 などが 3



延宝4年(1676)在銘



田」の刻銘(部分)



と手足の形が菱形になります (2) (3)



④ 龍眼寺の庚申塔 万治2年(1659)在銘

り型は少数で、 丸彫り型です 見られません。 造られました。 中 的に造られました。 1 6 8 3 頃〜近代まで、 0) <u>(5)</u> 庚申 常光寺にある天和3年 18世紀以降はほとんど 石全体を彫像 少数ながら継続的に - 塔は、 角柱型は、 区内唯 した丸彫 17 世

が現れます

特徴は、

背面を粗彫

りで舟底の形状に削り、正面頭部にアー

大状の窪みを形成しています。

17 世紀

庚申塔の本尊

志演神社にある寛文元年古い形態です。区内で最古

区内で最古の板碑型は

の庚申塔です

(本紙265号参照

中

頃が最盛で、

18世紀には消滅する

字)、 三猿は、 弥陀や釈迦、 以降に一般化します。 面金剛を本尊とするのは、 病気を除くとして信仰されました。 くて三眼、 青色で四臂または一 られます 上部には、種子が刻まれています の三猿などが本尊でした。 は年代的に古く 庚申塔の本尊には青面金剛 「見ざる、 手足が垂直になっているも 3 足下に鬼を踏みつけた像で、 種 しゅ 子じ 聞 青面金剛とは、 かざる、 一臂・六臂、 <u>4</u> (釈迦などを表す文 それ以前は、 時代が下る ④の三猿 17世紀中 言わざる がよく見 目は 6 体 冏 青 頃 は

> ます。 れた「青面金剛 れる文字塔も出 どの文字で表さ を本尊にして 青面 しました。 正面に刻ま 金 「庚申塔 剛 (1)

> > ふ

釈迦

%[:

阿弥陀

庚申塔の刻銘

Ti

一面観音

⑥三種類の種子(④三猿の上部)

庚申塔に刻ま

下には このほかに、 とがわかります。 講は 村名が刻まれている場合も多く、 名が刻まれており、 は造立した人を表します。 ともあります。③④は、 が続くな刻んでいるものもあります。 7性ですが、女性の名前が見られるこ た年月日は造立された時期を、 八右衛門新田」と刻まれています。 般的に村単位で行われていたこ 同女房」 造立した目的や願 ③の塔身の左側 とあります。 ④の男性の名前 三猿の下に人 その多くは いを表 また、 庚申 面に 名

(文化財専門員 金井貴司

お詫びと訂正

て訂正 0 記述に誤りがありました。 052件」となります。 「3件を解除したため」 いたします。 (265号) 1頁 八上段 お詫び 総数 正しく 横 は